

## 海賊対処行動派遣部隊がアデン湾に向け出航

～ 派遣海賊対処行動水上部隊（第44次隊）出国行事の様相 ～

ソマリア沖・アデン湾における海賊対処行動のための第44次派遣海賊対処行動水上部隊の出国行事が1月22日に開催され、今回が4度目の海賊対処行動任務となる護衛艦「まきなみ」が青森県大湊から出港した。

同艦は、乗艦する第3護衛隊群、第7護衛隊の藤井健一司令のもと、野瀬浩司艦長が指揮を執る。なお、同艦は中東地域における情報収集活動も兼務することとしている。

「まきなみ」には、ソマリア周辺海域派遣捜査隊を編成する海上保安官8名を含め、約220名が乗り組み、現地において、活動中の第43次部隊の護衛艦「すずつき」と交代することになる。

式典では木村次郎防衛大臣政務官が、「ソマリア・アデン湾は海上交通の要であり、海上安全の確保は国民にとって極めて重要である。海賊事案は低水準にあるが、民間からは引き続き海賊対処行動を求められており、諸君の活動が頼もしく、心強い存在となっているはずである。訓練の成果を遺憾なく発揮し、誇りをもって活動に従事して欲しい」と訓示した。

続いて、齊藤聡自衛艦隊司令官は、「14年間で行った900回、4000隻を超える船舶の護衛には国内外から高い評価を受けているが、厳格な対処の賜物である。中東における情報収集活動と2つの任務になるが各人が誠実に対処することを望む」と訓示した。

また、白石昌己海上保安監は、「我が国の活動は14年の長きにわたり、船舶、船員の安全を確保し、海賊の未然防止に寄与しており、当該活動は国際社会から高い評価を得ている。海上保安庁、海上自衛隊共に理解、信頼を深め、未来に向け更なる発展に寄与することを期待する」と訓示した。

当協会からは森重俊也理事長が「日本関係商船保護を引き続きよろしくお願ひしたい」と、活動への感謝と乗員の無事を祈る旨を伝えた。

当部隊を率いる藤井司令は、「与えられた任務を遂行し、この大湊に元気に帰って参ります」と決意を述べた。

出席者は雪の舞う岸壁から、登舷礼で出航する「まきなみ」の安全航海と乗員の無事を祈りつつ、見送った。

出国行事



訓示を行う木村防衛政務官



訓示を行う齋藤自衛艦隊司令官



訓示を行う白石海上保安監



決意を述べる藤井司令



協会を代表して挨拶する森重理事長



登舷礼で大湊を離れる「まきなみ」